うねべかみをあげたり、や御だいばんのおほいを兩めんとりて、二ながらおの〳〵御ばんにすくそうはあげず、へてこれをまかる、くだ物もとより御だいばんにあり、ばとうばんはしかいおなじくあり、臣下のだいばんにも、くだ物はしかいかねてすへたり、はれの御膳四種已下八ばん供じぬれば、やがてわきの御膳を供ず、もし程をへば、内辨もよほす、其詞云、御後之職事や候、わきの御ぜんとうあるひはのこりの御ぜんともいふ五位藏人西階のへんすのこにて、これをもよほしおこなふ、おほよそ御ぜんのくさ〴〵その名はあれども、その姿いづれとわきがたし、内膳などたしかにいまだたづねとはず、てんせい、ひつら、かつこ、けいゑんなどやうの物なり、こんとん、さくべいは、めぢかきものなれば、さだめて人もおぼつかなからず、

〔恒例公事錄三〕元日節會

次晴御膳内膳司自南階供之四種酢、酒、鹽、醬、各銀器、唐菓子銀鈍、餲餬、索餅、桂心、各銀器、

其儀、内膳司率膳部二行自南階供之、采女正叉手月華門ヲ入前行版ニ留立、警蹕ヲ稱其詞ヲシ、膳部等相並南階ヲ昇、下ノ第一級二三采女南廂西第三間ヲ出、南階ヲ下リ取之、二采女四種御盤ヲ取、三采女唐菓子盤ヲ取、本路ヲ歸入、先四種御盤ヲ進、一采女取之參進、一御臺盤ニ供、各蓋擎子ヲ撤シ、盤ニ載セ下之二三采女手轉西階ヨリ下之、進物所受之退出、次唐菓子ヲ供、蓋擎子等返下如前、進物所受之退入、采女手及ビ難キ時、藏人頭御帳西ニ立、密々扶之、

次掖御膳御厨子所預自西階供之餡子　黏臍　餌饟　團喜皆銀器

〔恒例公事錄三〕元日節會御下行米之事

出御之御用

拾石　晴御膳内膳司

四石貳斗　腋御膳御厨子所預